

日 時：令和5年7月6日（木）18時30分～19時40分

場 所：原田農業研修センター

対象地区：原田

参加人数：13名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○農道の整地作業について</p> <p>（市民から）</p> <p>5月の下旬に弘前市のグレーダーが農道を整地していたのだが、境界を越えて平川市側にまで入り込んできていた。整地したことで路側に段差が生じてしまい、自走式の草刈り機での作業ができない状況となっている。多面的機能支払交付金で整備した砂利も剥ぎ取られてしまった。そもそも、なぜ弘前市のグレーダーが平川市で作業していたのか。事前に連絡はあったのか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・弘前市からは連絡を受けていない。関係各所に確認するので、現場の位置を教えてさせてほしい。そのうえで弘前市に状況を報告し、今後こうしたことのないようにしたい。</li></ul>
<p>○道路の拡幅について</p> <p>（市民から）</p> <p>集会所の前の道路を拡幅してほしい。冬には車が何台も路肩から転落している。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前回のまちづくり懇談会でもお話いただいた内容だが、用地買収も必要で、かなりの経費を要することから、すぐに着手するのは難しい。</li><li>・交通量や路肩の状況は把握しているが、側溝を入れて段差が生じると歩行者や自転車が路肩から転落する危険性がある。法面を整形して水路を入れる工事であれば用地買収が必要となる。沿道のみなさんの協力が必要となるため、町会内でみなさんの承諾を得たうえで町会要望として提出してほしい。</li></ul>
<p>○交差点の隅切りについて</p> <p>（市民から）</p> <p>集会所の前の交差点の見通しが悪いので、隅切りを行うことはできないか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まずはカーブミラーの状況を確認し、見通しが悪いようであれば、どういった対応ができるか検討する。隅切りを行うためには用地の買収が必要となるため、付近のみなさん</li></ul>

の協力が必要となる。

○国際交流について

(市民から)

アメリカ合衆国のメイン州カムデンとの間で、ホームステイなどの中学生の国際交流が行われているが、産業での関わりが薄いため、そこから先への発展が見込めないのではないか。りんごを栽培しているような地域との交流ができないか。例えばニュージーランドやオーストラリアではりんごの栽培が行われており、時差がないのでオンラインでのタイムリーな生徒同士の交流も行える。また、農家同士、大人同士での交流もできるのではないか。

(市から)

- ・カムデンとの交流は、旧平賀町の青少年交流から始まり、今に続いている。青少年が海外に出て様々な交流を行うことにより、人間的な成長が期待できるということで、今後も継続していくことになると思う。産業を含めた交流となれば、さまざま検討しなければならない部分が出てくる。
- ・平川市では台湾の台中市とも交流があり、今年のねぷたまつりには台中市からの訪問が予定されている。
- ・交流を始める際には、何らかのきっかけが必要となる。例えばニュージーランドと平川市には今のところ何のつながりもない。
- ・新型コロナウイルスの影響により、交流が難しくなっていたが、これから進んでいくと思う。
- ・近年はALTが小学校でも授業を行っているが、児童も親しみを持ってきている。国際交流を行うことは、児童・生徒にとってプラスになるものと感じている。

(市民から)

つながりのない地域でも、県を通すことで交流できないか。

(市から)

- ・県でも海外とのつながりは大事にしていくものと思う。これまでも、イタリアやロシア、中国と交流した経緯がある。

(市民から)

これまでりんごの販売を見据えた交流となっていたかと思うが、今後は平川市の特色を活かして、視点を変えて子どもたちのための交流を行ってほしい。

○ふるさと納税について

(市民から)

最近の寄附額や件数は、どのように推移しているか。寄附額を増やすためにどういった対策をし、どういった返礼品があるのか。

(市から)

- ・ふるさと納税の寄附額は、令和4年度は約2億6千万円、令和3年度は約2億7千5百万円だった。最高額は平成30年度の約4億円で、この当時は返礼品の基準も現在とは異なっていたために高額となっている。寄附件数は金額に応じて推移している。
- ・寄附額を増やすための対策としては、令和4年度は特に寄附を募集するポータルサイトへの広告掲載に力を入れて取り組んだ。
- ・平川市の返礼品として、いちばん多く出ているのはりんごの生果で約90%、そのほか桃の生果やひらかわ牛がある。

○広報ひらかわの配布について

(市民から)

市外の方にも送っているのか。

(市から)

- ・東京津軽平川会の会員には毎月送付している。また、市外の方から送付の希望があれば対応している。

○学区の再編について

(市民から)

学区の再編の話が出ているが、現在の状況を教えてほしい。

(市から)

- ・社会や考え方の変化もあり、どこまで行政が関わるかはいろいろな考えがあるが、育てる・産む・出会う、いずれの段階へも支援が必要と思う。出会いに関して言えば、県や圏域の事業もあるが、生まれた子どもへの支援については、市では手厚く行っている。
- ・人口減少への対策は、役所内でもさまざま検討しているが、国や県の動向を見ながら、更に検討をしていく。

○空き家対策について

(市民から)

空き家について、どのような対策を行っているか。

(市から)

- ・平川市内には約400軒、原田地区には8軒の空き家を確認している。主な対策としては空き家の解体に対して、1軒につき最高50万円の補助金の交付を行っている。

(市民から)

空き家の持ち主とは連絡はとれているのか。

(市から)

- ・空き家となる原因として、相続関係が複雑になっている場合がある。相続人に成りうる人ひとりひとりと連絡をとろうとしているが、実際にはなかなか連絡がとれない。

○米価下落への対応について

(市民から)

米価の下落について、市ではどのような対応をしているか。

(市から)

- ・令和3年産の米価の下落については、次期作の意欲向上のため、令和4年度産の種もみを購入する際に半額を助成した。
- ・農協と連携し、借り入れに対する利子を0円とする利子補給を実施した。
- ・セーフティネット対策として、収入保険の促進のため、これまで実施していた保険料の助成を3割から5割に引き上げている。
- ・当時市外に居住していた本市出身の学生に、平川市産の米を届ける事業を実施した。

○職員の電話対応について

(市民から)

相談者に寄り添った対応をお願いしたい。

(市から)

- ・大変申し訳なく思っている。電話対応には十分気をつけるよう職員には伝えているが、対応についてご指摘をいただいている場合もあるので、市民の立場に立って考えるよう、今後も職員に伝えていく。

○金融に関する教育について

(市民から)

テレビの報道で、学校に証券会社が金融に関する授業を行っている様子を目にした。当市ではそうした授業行っている例はあるか。

(市から)

- ・教育委員会ではそのような例は把握していない。